

# チェロのみの通奏低音による リコーダーソナタ

リコーダー

本村睦幸

バロックチェロ

山本徹



F. M. ヴェラチーニ:

リコーダーソナタ 第4番 変ロ長調

B. マルチェッロ:

リコーダーソナタ 第8番 ニ短調

J. S. バッハ:

無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 より

A. コレツリ:

ラ・フォリア (Walshによるリコーダー版)

休憩なし60分のトークコンサート

同プログラム3回公演

昼 13:30 開演 (13:00 開場)

夕 16:00 開演 (15:00 開場)

夜 19:40 開演 (18:30 開場)

2016年4月14日[木]

Space 415

中野区新井2-48-12

<http://space415.info/>

JR中央線/東京メトロ東西線

中野駅北口より徒歩12分

野方警察署近く、区立野方児童館の隣

「芦野」の表札がある入口を入ってすぐ右の建物の2階

全自由席 ¥3,000 要予約

■ご予約・お問い合わせ

デ・ルストホフ: [lusthof.concerts@gmail.com](mailto:lusthof.concerts@gmail.com)

あしの: 090-6045-9311

<http://mutsuyukimotomura.com/>

中野の Space 415 で、トークを含め、休憩なし 60 分のプログラムを 1 日 3 公演行う「小さな室内楽」第 15 回は、バロックチェロの山本徹さんをゲストにお迎えして、チェロのみの通奏低音によるリコーダーソナタを中心にお聴きください。コレッリをはじめとする多くのバロックソナタでは、表紙に「チェロまたはチェンバロによる通奏低音を伴う独奏」と表記されています。楽器を重ねる通奏低音も魅力的ですが、チェロのみの通奏低音で演奏すると、ソロと伴奏という印象より、ずっと対等な 2 声の対話が聴こえてきます。そのような形でいつもと違った面白さがとりわけ発揮される曲を選びました。もちろん、それに加えて、バロックチェロ独奏でのバッハ無伴奏チェロ組曲もどうぞお楽しみに。



中野駅より徒歩約 13 分、赤系、青系矢印どちらからもいらっしやれます。が、お薦めは北口左手のエスカレーターを上り平和の森公園を通り抜ける青系コースです。

### 小さな室内楽第 16, 17, 18 回予告

5 月 28 日 (土)

本村睦幸 (リコーダー)、上尾直毅 (チェンバロ)  
 <ドイツのリコーダーソナタ>

7 月 1 日 (金)

本村睦幸 (リコーダー)、坂本龍右 (リュート)  
 <ド・ヴィゼの作品>

8 月 5 日 (金)

本村睦幸 (リコーダー)、佐藤駿太 (ヴァイオリン)、  
 上田朝子 (リュート)、折口未桜 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)  
 <デュパールの組曲>

#### 本村睦幸 Mutsuyuki Motomura (リコーダー)

アムステルダム音楽院卒。W.ファン・ハウエらに師事。アムステルダムを拠点とする十余年に渡る活動を経て、2001 年に帰国。リコーダー音楽が花開いたルネサンス・バロック時代の室内楽の楽しみを現代に活かすことを夢見て、愛好家の方々にとっての聴く喜び、奏でる喜びの双方を見据えた活動を展開している。2009 年には「東京リコーダー音楽祭 2009」(読売新聞社主催)のディレクターを務めた。現在は、リコーダーに本来的な小さなサロンのあり方を探る「小さな室内楽」シリーズを東京での活動のベースにおきながら、リコーダーの様々なレパートリーを網羅的に取り上げる「本村睦幸リコーダーシリーズ」や、古楽器に限らない多様な演奏家との共演、現代作品の委嘱なども通じてリコーダー音楽の可能性を追求している。CD に「オランダバロックの愉悅」、「バルサンティ:リコーダーソナタ全 6 曲」、「無伴奏リコーダー 600 年の旅」があるほか、昨年、CD「テレマン:無伴奏フルートのための 12 のファンタジア」に加えて、同曲集のアルトリコーダー版を全音楽譜出版より校訂出版している。ホームページは、<http://mutsuyukimotomura.com/>

#### 山本徹 Toru Yamamoto (バロックチェロ)

東京藝術大学、同大学院古楽専攻、及びチューリヒ芸術大学修了。チェロを土肥敬、河野文昭、北本秀樹、鈴木秀美、ルーロ=ディールティーンズの各氏に師事。東京藝術大学バッハカンタータクラブにて小林道夫氏の指導のもと通奏低音奏者としての研鑽を積む。バッハ・コレギウム・ジャパン、オーケストラ・リベラ・クラシカ等主要な国内のオリジナル楽器オーケストラのメンバー。チューリヒ歌劇場のオーケストラ・ラ・シンティラをはじめ、オーケストラ・ラルテ・デル・モンド (レバークーゼン)、リ・アンジェリ・ジュネーヴ、ストラディヴァリア (ナント) など海外のアンサンブルにも多数参加。また山形交響楽団、横浜シンフォニエッタをはじめ多くのオーケストラに客演首席奏者として参加するなど、モダン・バロックを問わず積極的に活動を展開している。2006 年第 20 回国際古楽コンクール<山梨>第 2 位。2008 年第 16 回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール第 2 位。2011 年ブルージュ国際古楽コンクール審査員賞、及びオランダ・ファンヴァッセナール国際コンクール優勝。2010 年度文化庁新進芸術家海外研修員、2011 年度ロームミュージックファンデーション奨学生。日本演奏連盟会員。